

<活動の概要>

- ・本校は、『大好き 津田!』地域に学び、地域に育つ津田っ子の育成～地域の中でいきいきと活動する子どもを求めて～をテーマとして、地域のかたがたとのつながりを大切にし、地域に愛着がもてる子どもの育成に取り組んでいる。
- ・ESD教育を通して育みたい資質・能力として、多面的、総合的に考える力・コミュニケーションを行う力・つながりを尊重する態度を中心に据えて、学年に応じた教育活動を推進している。
- ・一年間、四季の移り変わりに沿って行事を設定し、各学年が何らかの形で関わり、人と人とのつながりを育みながら実践を重ねている。

・活動の実際

① 防災に関する活動(4年)

校区の中心を流れる江川は、豊川放水路の支流である。6月に線状降水帯が発生した際、川崎町の小嶋さんたちが江川の水門を閉めることで豊川放水路からの水の逆流を防ぎ、水害を最小限にとどめた。4年生は、江川の入り口にある東江川樋門と江川排水機場(ポンプ場)を見学し、水門の役割と「ふるさと津田」を守るために、有事のときだけではなく日頃から川の様子を観察している地域の人の思いを知ることができた。津田っ子発表会では、子どもたちが調べた水害と地震や津波への備えを全校児童と保護者に発表した。



② 平和に関する活動(6年)

「戦争って何だろう」という子どもたちの疑問から、「戦争」について調べ学習をした。日本は昔、さまざまな「戦争」を経験し、その時代に生きていた人々は苦しみ、悲しい思いをしたことを学んだ。また、実際に戦争を経験したかたをゲストティーチャーとして招き、その当時の話を聞いた。子どもたちは、二度と戦争を起こさないために自分たちにできることを話し合い、地域に伝えていきたいという思いをもった。



③ 環境・キャリアに関する活動(3年)

校区内外のさまざまな「働く人」と会い、それぞれの仕事に対する思いや工夫について取材した。



スーパーマーケットや市場、工場では、消費者が納得して喜ぶ姿を想像し、創意工夫をこらしていることを知った。また、消防団など地域防災のために日々訓練に取り組んだりするなど、地域のために働く人々の存在にも気づいた。これらを通して、自らの未来のイメージを膨らませ、発表した。

④ 福祉に関する活動(5年)

校区にある特別養護老人ホーム「喜寿苑清須」を訪問し、利用者と交流をした。この施設は東三河に住んでいるかただけしか利用することができないことを知った。また、津田校区にはさまざまな人が暮らしていて、どのように支え合っているのかを考えました。自らの生活や生き方に生かしたいという思いをまとめたり、発表したりした。



⑤ 環境・キャリアに関する活動(1・2年)

進級したての2年生は、1年生に校内を案内することを通して、自分自身の成長を実感することができた。また、仲よし班のルールを作り、楽しく有意義な校外学習にすることもできた。一方で1年生は、2年生の姿をまのあたりにすることで、自分自身の成長する姿を想像した。



1年生はアサガオやチューリップ、2年生は夏・冬野菜の栽培に取り組み、植物の成長過程の観察や作業を体験したことで、自然からの恩恵を実感した。また、1年生は、自分の家の周辺だけでなく、校区を探検することで、自分の知らなかった町の様子を知ることができた。そして2年生は、校区にある施設を訪問し、お話を伺い、校区の「いいところさがし」をして、校区の自慢を見つけることができた。